

協議事項36

「子どもが主役のこれからの学び」の実現に向けた取組について

「子どもが主役のこれからの学び」の実現に向けた取組について、協議事項として以下のとおり提案する。

令和8年1月29日提出

神戸市教育委員会事務局

事務局長 竹森永敏

「子どもが主役のこれからの学び」の実現に向けた取組について

1. 全国および神戸市学力・学習状況調査の調査結果・分析

(1) 教科に関する調査結果の概要

- 平均正当率は、小学校6年の国語・算数、中学校3年の数学は全国をやや上回り他は同水準。
- 小・中学校ともに、基礎学力の定着に課題が見られる児童生徒が一定数見られる。
- 自分の考えを説明することや根拠を明確にして理由を記述する等、思考・判断・表現に課題。
- 学校ごとの平均正答率を比較した場合に、学校間の学力差が見られる。【以上、全国調査】
- 各教科では、以下のような課題が見られる。【市調査】

国語 …文章内容と関連付けて自分の考えを書くことに課題

算数/数学…図形の構成要素や性質に着目し考察する力や数量関係を捉え式に表す力に課題

理科 …実験結果をもとに解釈し、数値等を使って考えを表現する力に課題

英語 …文脈から情報を把握したり、目的に応じて相手に伝えたり尋ねたりする力に課題

○全国調査の結果

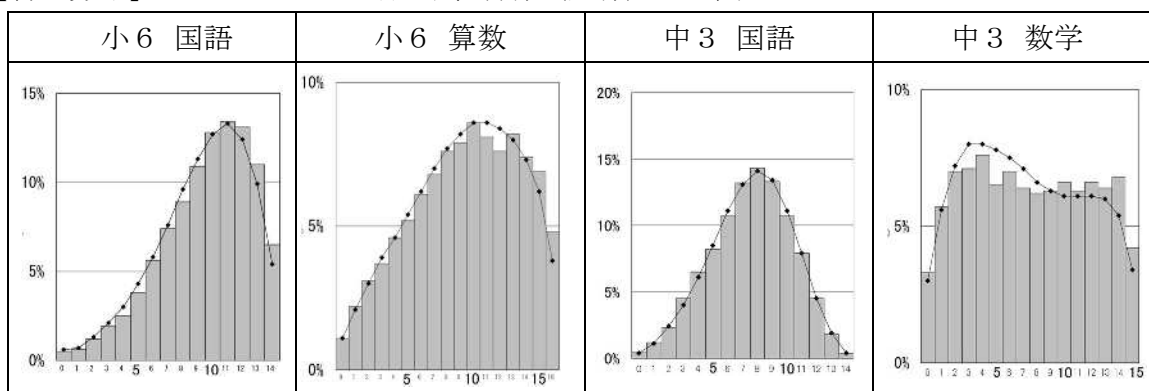
【平均正答率】

(%)

全国調査	教科	神戸市	全国	比較	(R6 全国比)
小6	国語	68	66.8	+1.2	+0.3
	算数	59	58.0	+1.0	+0.6
	理科	57	57.1	—	—
中3	国語	54	54.3	△0.3	△0.1
	数学	50	48.3	+1.7	+2.5
	理科	504	503	—	—

理科のみ IRT
スコア表示

【得点分布】 ヒストグラム…神戸市、折線（実線）…全国



(2) 児童生徒 質問調査結果について（全国調査より）

【主体的・対話的で深い学びへの取組】

※単位%

- ・関連する質問項目について、7割以上の児童生徒が「主体的・対話的で深い学び」に取り組んだと考えている。小学校は前年よりやや上回っているが、全国と比べると小中学校ともに下回っている。

「Q 課題の解決に向けて自分で考え取り組んだ」

小 6 : 78.0 (前年比+0.9 / 全国比△2.3) 中 3 : 72.5 (前年比△5.2 / 全国比△5.2)

「Q 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている。」

小 6 : 83.6 (前年比+1.6 / 全国比△1.3) 中 3 : 81.2 (前年比△1.1 / 全国比△3.5)

【授業の理解度】

- ・昨年度より減少したものの、多くの児童生徒が授業はよくわかると考えている。全国と比べると小中学校ともに下回っている。

「Q 国語の授業がよくわかる」

小 6 : 78.5 (前年比△4.1 / 全国比△4.3) 中 3 : 75.3 (前年比△5.5 / 全国比△1.7)

「Q 算数・数学の授業がよくわかる」

小 6 : 74.0 (前年比△3.8 / 全国比△4.3) 中 3 : 66.2 (前年比△7.2 / 全国比△4.1)

【ICT機器の活用】

- ・昨年度より約2割増加し、7割以上の児童生徒が学習用パソコンを積極的に活用し取り組んだと考えている。全国と比べると小学校は上回っており、中学校はやや下回っている。

「Q 授業中に学習用パソコンを積極的に活用する」

小 6 : 79.5 (前年比+20.7 / 全国比+7.8) 中 3 : 74.3 (前年比+20.2 / 全国比△2.2)

(3) 市調査における CBT 調査の実施状況と課題

- ・各校での事前の CBT 調査体験の実施等の準備により、概ね混乱なく円滑に実施できた。

[課題]・一部の調査問題において、回答方法の操作に戸惑ったケースや、問題用紙への書き込みができないことにより回答が難しいケースがあった。

- ・通信やソフトウェア更新の影響により調査問題の表示に不具合が一部発生した。

(4) 調査結果等を踏まえた今後の取組

- ・子供たちが主体的に学べる授業改善に向けた具体的な取組を全教員に提示する他、新たに導入する学習用タブレット(iPad)の効果的活用を図るなど、自分にあった学び方や学習内容を主体的に選択し、他者と協働しながら学び合い、深い学びにつながる授業づくりを推進する。

2. 令和8年度 全国学力・学習状況調査への参加および公表方針について

①実施概要

- ・実施日 令和8年4月23日（教科調査）
- ・対 象 小学校第6学年、中学校第3学年

- ・内 容 教科の調査：[小学校] 国語・算数 [中学校] 国語・数学・英語（CBT 調査）
児童生徒質問調査：全小中学校 ※CBT 調査
学校質問調査：学校長が回答

②公表方針

- ・神戸市全体の結果については、文部科学省の公表とあわせて、教育委員会が小中学校の教科区分毎の「平均正答率」を速報値として公表する。
※学校間の序列化等につながる恐れがあるため、学校毎の「平均正答率」「平均正答数」等の数値は公表しない。
- ・教育委員会による公表後、各学校では学力向上の取組や課題、改善方策等について保護者及び地域住民に文章表記する形でお知らせする。
- ・学識経験者、小中学校の教科毎の代表者等による「学力向上推進委員会」の分析を経て、課題の改善方策も含め、調査結果の詳細を報告する。

【参考】令和7年度神戸市学力・学習状況調査（概要）

（1）調査の目的

- ・神戸市全体の児童生徒の学力の状況や学習に対する意識を把握・分析し、指導方法や指導内容の改善に役立てる
- ・全国調査と併せて児童生徒一人一人の学力・学習の状況を小学4年生から中学3年生までの6年間、一人一人を経年で追うことが可能となり、よりきめ細やかな指導の充実を図る

（2）調査概要

調査実施日	令和7年9月2日（火）～9月17日（水）
調査対象	児童生徒：小学校4・5年生（165校）、中学校1・2年生（86校）
調査事項	児童生徒：教科調査／質問調査 ・小学4年生（国語、算数） ・小学5年生（国語、算数、理科） ・中学1年生（国語、数学、英語） ・中学2年生（国語、数学、理科、英語）
調査問題	・CBTの特徴を生かし、本市の課題である「自分の考えを説明したり、根拠を明確にして理由を記述したりする」等に対応した問題、またこれまで以上に「思考・判断・表現」に関わるものを出題。
R7 調査の特徴	・全教科 CBT 調査の導入 ・神戸市の課題に応じた問題への変更

（3）平均正答率

市調査	国語	算数	理科		国語	数学	理科	英語
小4	53.7	45.2		中1	65.2	47.7		88.9
小5	58.5	51.1	46.1	中2	51.1	41.8	32.2	62.5

（4）今後の予定

- ・1・2月中に有識者や教科担当主事等による調査結果の分析及び授業改善案の検討を行った後、学校へのフィードバックを行う。